

平成26年度 妙高市家庭・技術家庭部 活動報告

部長 堀井 睦子

1 研究主題 一人ひとりに「生活に生かす力」を育てる指導の工夫 ～2年次～

2 研究の概要

妙高市は、小学校と中学校が一緒に教育研究会を組織、家庭・技術家庭部としている。昨年度は今年度と同様の研究主題で、レポートによる実践交流と調理実習(子どもに伝えたい妙高市の郷土料理)を行った。

2年目の今年度はその成果と課題を踏まえ、「生活に直結する内容が多い中学校技術分野の授業から学びたい」との部員の要望を受け、次のように公開授業研修を実施した。

3 研究の実際

(1) 授業研究 1年 技術科 題材名「立体を等角図に表す」

①研修日 平成26年11月11日(火) 14:00～16:45 於：妙高市立新井中学校

②授業者 新井中学校 望月慶理 教諭

③指導者 上越市立城東中学校 教頭 梅山猛生 様

(2) 研究協議

- ・材料を加工して製作するために必要な製図を初めて経験することから、導入では小学校で学習した見取り図と関連づけながら等角図への気付きを促していた。また、等角図が身近な家電製品や模型等の説明書に多用されていることから、等角図への興味や、それを描くことへの意欲を高めていた。



- ・【ステップ1】で、斜眼紙を使って立方体1個の等角図を描く。その中で、必要な用語や等角図を描く手順を理解させる。【ステップ2】では、一人に8個ずつの立方体を各自が思い思いに組み合わせてできた立体の等角図を描く。このような2段階を踏んだことで、多くの生徒は意欲的に製図に取り組んでいた。しかし、中には【ステップ1】と【ステップ2】のギャップが大きく、どこから描き始めてよいか迷う姿も見られた。「立方体の数は6個程度でも良かったのではないか。」「机間巡視で描き始めの部分をアドバイスする。」といった意見があった。

- ・導入と【ステップ1】に時間がかかり、終末に等角図の良さを実感したり、製作予定の様々な箱の等角図を見て、それが等角図であることを確認したりすることが十分にできなかった。また、各自が描いた等角図を互いに見せ合って、組み立てた立体を再現し合う活動が必要だった。

4 成果と課題

協議会の後に、この授業研修から学んだことや家庭科や技術科等の授業に生かしたいことを参会者一人一人が記述する振り返りの時間を設定した。

技術や家庭科は、他の教科以上に生活とのつながりが大事になってくると思う。ゆえに、「生活に生かせる授業」にならないと意味を持たないのではないかと改めて感じる事ができた。そのためには、まずは子どもの「やりたい」「自分にもできるかも」という意欲を十分に引き出す工夫。そして、展開の中で、「できた」という達成感を得られる場面をつくり、まとめで、「～に生かせるかも。」「こういう場面につながっているんだ。」という気付きをもつ。授業ではこの一連の流れが必要だと学んだ。という成果が記述されていた。

また、「ペア学習やグループ学習、分からないことを共有してみんなで解決するような授業展開」「子どものつぶやきや間違っただ意見を生かす教師の方策」等により「学び合い」を追求する必要性が課題として残った。

